

# あいづちの研究

## —トーク番組におけるあいづち使用の実態—

塚原 千賀子

### 要 旨

テレビのトーク番組におけるあいづちの運用の実態を明らかにすることを目的として調査を行った。20代～60代の男女の出演者、14人の対話による文字化資料を用いて、あいづちに使われる言葉を音により分類し、その種類と使用率、使用頻度、あいづちが打たれる環境について分析、考察を行った。その結果、あいづちの種類は実に様々なものがあり、今回の調査では、115種類が観察された。最もバリエーションが豊かなのは、「そう系」で、使用率においては「うん系」が最も高かった。また、男女差によるあいづちの使用される種類の違いや、あいづちの打たれる箇所が特定された。

【キーワード】 コミュニケーション、あいづち、聞き手、男女差

### 1. はじめに

日本語教育において円滑なコミュニケーションを行うために、話し手と同様に聞き手の言語行動が重要であることが指摘されて久しい。欧米人のあいづちの少なさに不安を覚えたり、学習者の不適当な使用に違和感を覚えたことがあるのではないだろうか。斎藤真理子氏の研究論文によると、中国系の学習者が多く使う待遇レベルの低い「ウン」というあいづちに馴れ馴れしさを感じた経験は、日本語を話す外国人と接する機会のある人なら1度や2度はあるのではないだろうかと述べているが、中国語におけるこの「ウン」というあいづちは、楊晶氏の研究によると「はい」「ええ」と訳され、中国語においてはこのあいづちが日本語のように待遇度の低いあいづちではないことが分かる。中国系の学習者は、日本語に同じような音の「うん」というあいづちがあることから、目上の人にも使えると思ひ込む、母語の転用が起こっているのではないかと解釈することができる。このような母語の転用や不適切な使用を回避し、日本語によるコミュニケーションにおいて適当なあいづちを身につけることが、よりコミュニケーション能力の向上におけるステップアップにつながるのではないかと考えられる。

日本語のあいづちは、質的にも量的な頻度の多さの点からもかなり特殊なもの（水谷信子氏）と言われる。このあいづちについて日本人母語話者のあいづちの種類と使用率、使用頻度とその出現する環境について調査し、考察を行い、日本語教育に反映させていきたいと思う。

### 2. 先行研究

あいづちの研究は、宮地敦子氏などの研究から行われていたが、それが盛んに行われるようになったのは水谷信子氏などの研究からである。コミュニケーションの上達において話し手だけでなく、聞き手の役割が再認識されるようになってきたためである。あいづちに関する先行研究は、次のようなものがある。黒崎良昭氏は、あいづちと位相の関係について調べ年代差や男女差、談話における型について論じた。また、参加者が談話にどのように参加しているのかを調査したには、杉戸清樹氏である。小宮千鶴子氏は、参加者の人間関係、対話と電話の場合による違いと時間を追うごとに変化するあいづちにおける待遇度の違いについて述べた。ポリリー・ザトラウスキー氏は、勧誘の談話におけるあいづちと会話のストラテジーの関係について。メイナード・K・泉子氏、楊晶氏、坂本和子氏は、他言語と日本語のあいづちの対照研究を行い、さらに日本語教育への応用は、水谷信子氏、ポリリー・ザトラウスキー氏、小宮千鶴子氏、堀口純子氏、松田陽子氏、伊藤博子氏などが行っている。

### 3. 研究の目的と方法

#### 3-1 研究目的

先行研究により様々な特徴が見られる日本語のあいづちを日本語教育に取り入れるための前準備として、日本人母語話者によるあいづちの実態について調査したいと思う。その研究項目は、あいづちの種類と回数、その使用率と使用頻度、そしてあいづちが打たれる箇所の把握である。

### 3-2 データの収集

2001年5月～9月に放送されたテレビのトーク番組を収録し文字化する。番組は、笑っていいとも！4回分、はなまるカフェ3回分、徹子の部屋3回分である。それぞれの番組のゲストが1名である回のみを選んだ。この3種類のトーク番組は、ゲストが本人に関する話題を話しその話を司会者が聞くというスタイルのものである。

時間は、笑っていいとも！（約20分）を4回分で80分間、はなまるカフェ（約30分）を3回分で90分間、徹子の部屋（約40分）で3回分で120分間の計、約4時間50分間である。出演者は、司会者も含めて20代～60代の男女で男性6人、女性8人の計14人である。この3種類の番組はすべてトーク番組とはいえ、笑っていいとも！は、対話に近い形をとっており、はなまるカフェと徹子の部屋は、話題がほぼ決まっておき、対話とインタビュー形式の折衷型と言ってもよい形態をとっている。

### 3-3 あいづちの定義

先行研究によるあいづちの定義は様々で、はっきりとしたあいづちの枠が定まっていないのが現状である。本稿では、「はい」「うん」「ええ」「そう」などのいわゆる「あいづち詞」と呼ばれるもののうち話し手の質問に回答したものではないもので「聞いている」「理解している」「同意している」「興味」「関心」を示す機能をもつものをあいづちとする。また、うなずきや笑いもあいづちと同様の機能を持っていると考えるが、今回の調査ではうなずきなどの非言語によるものは不十分にしか抽出することができないため除外した。上記にある「あいづち詞」のうち話し手の質問に回答したものというのは、応答表現のことであり、疑問文に対してYesかNoかというような判断を伴った「はい」や「いいえ」などの表現を指している。

応答表現

男性司会者：えー、その芸名に関してですか？

男性ゲスト：はい。

はなまるカフェより

### 3-4 あいづちの分類—音による分類—

あいづちの種類として分析を進めていくと、主に7種類の音の始まりで分類することができた。1、「うん系」うん、うーんなど。2、「え系」ええ、えっなど。3、「はい系」はい、はいーなど。4、「あ系」あー、あっなど。5、「そう系」そう、そうです、そうなんですなど。6、「はへほ系」はー、へー、ほー、ふーんなど。7、「その他」あら、なるほど、いえいえなど。特に「あ系」は、「そう系」と複合している、あーそうですかななどのものも多種類あったが、音の分類として「あ」の音で始まるあいづちはすべて「あ系」に含めるものとした。また、「その他」に含めた「いえいえ」などのあいづちは研究者によりあいづちの定義に反するものとして排除しているものもあるが、本研究においてはあいづちのひとつとして、「その他」に含めるものとした。

### 3-5 あいづちの機能

あいづちの機能は、先行研究により大きく2つに分けられることがわかっている。一つは「促進型」であり、もうひとつは「完結型」とよばれるものである。本研究による音の分類のうち促進型に当たるのは「うん系」、「え系」、「はい系」、「あ系」のあっそうなどのバリエーションを除いたもの。「そう系」のそうです、そうなんですなどのバリエーションを除いたものである。つまり、うん、ええ、はい、あー、そうといった音節が短く、形が固定されているあいづちが促進型のあいづちである。また促進型と名前がついているように話の内容について聞いている、または理解していることを示し、話し手を安心させ話を進めていく上での促進剤として機能する。促進型のあいづちは文の途中に使用され音節も短いことから相手の話の流れに大きく影響するものではない。

もうひとつの完結型のあいづちは、あっそうなどのバリエーションとそうです、そうなんですなどのバリエーション、「はへほ系」の強い共感を示す伸ばした音、そしてあらー、なるほど、などの類がこれに当たる。これらのあいづちは、驚きや確信などを示し話の終わりにその内容について聞き手が何らかの感情を示したり内容をまとめて完結する機能を持っている。

促進型のあいづち

女性ゲスト：これ、こっちの写真がまさに（ええ・女司）（うん・男司）それなんですけれどもー、（ええー・女司）まさに、みんなハッピー、家事はほとんど（はい・男司）フイフイ・フイフイというか、半々で（ええー・男司）・・・

はなまるカフェより

完結型のあいづち

女性司会者：母には相談しましたが、父には一切、相談しないで全部事後報告っていう  
 ことで（あーそうなんですか・女ゲ） 徹子の部屋より  
 ※女司—女性司会者、男司—男性司会者、女ゲ—女性ゲスト

#### 4. 分析結果と考察

##### 4-1-1 総合データ結果に見るあいづちの種類、回数、使用率

笑っていいとも！とはなまるカフェ、徹子の部屋の談話に表われたあいづちを音により分類し「うん系」「え系」「はい系」「あ系」「そう系」「はへほ系」「その他」に分けた。それぞれの番組ごとに1度まとめたのち、下記の結果はそれらのデータをすべて総合したものである。

総合

	はなまる	徹子	笑って	合計・1	合計・2	合計%
うん	335	129	82	546		
うんうん	9	3	7	19		
うんうんうん	2	3	2	7		
うんうんうんうんうんうん	0	0	1	1		
うーん	115	95	15	225		
うんねー	1	0	0	1		
うんそう	0	0	1	1		
うんなんかね	0	1	0	1		
う、うーん	0	2	0	2		
んー	3	1	0	4	807	39%
えー	187	104	31	322		
えーえー	25	36	1	62		
えーえーえー	3	4	0	7		
えーえーえーえー	0	3	0	3		
えーねー	0	0	1	1		
えーあーそう	0	1	0	1		
えっ	4	0	4	8		
ええっ	3	3	1	7		
ええっー	0	0	2	2		
ええー	7	0	0	7		
ええっあっそう	0	0	1	1	421	20%
はい	82	110	9	201		
はいはい	5	11	0	16		
はいはいはい	4	1	0	5		
はいはいはいはいはい	1	0	0	1		
はっはい	0	1	0	1		
はーい	0	1	0	1	225	11%
あー	50	9	7	66		
あーあー	1	1	0	2		
あーあーあー	1	0	3	4		
あーはー	0	1	0	1		
あーはい	0	1	0	1		
あーそう	0	4	1	5		
あーそうね	0	1	0	1		
あーそうか	1	0	0	1		

あーそうですね	0	1	0	1		
あーそうなんです	0	0	0	0		
あーそうなんですか	0	3	0	3		
あーこういうね	0	1	0	1		
あーはーはーはー	0	0	2	2		
あーはいはい	0	0	1	1		
あっ	0	0	2	2		
あっはい	2	0	1	3		
あっそう	0	14	5	19		
あっそーう	0	1	0	1		
あっそうね	0	2	0	2		
あっそうほー	0	0	1	1		
あっそうだよ	0	0	1	1		
あっそうですね	0	3	0	3		
あっそうですか	1	3	6	10		
あっそうなんです	0	1	0	1		
あっそうなんです	0	0	0	0		
あっそうなんですか	1	0	0	1		
あっそうですそうです	0	1	0	1	134	7%
そう	7	8	2	17		
そうそう	1	2	6	9		
そうそうそう	4	3	1	8		
そうそうそうそう	1	0	1	2		
そうそうそうそうそう	0	1	0	1		
そうそうそうそうそうそう	0	1	0	1		
そうね	1	1	0	2		
そうねー	1	0	0	1		
そうだよ	0	0	1	1		
そうです	0	21	0	21		
そうですそうです	1	7	0	8		
そうですそうですそうです	0	2	0	2		
そうですそうですそうですそうです	0	1	0	1		
そうですよ	2	5	1	8		
そうですね	12	37	3	52		
そうですねそうですね	0	1	0	1		
そうですか	0	1	1	2		
そうですよね	1	5	2	8		
そうですよねそうですよね	0	1	0	1		
そうなんだよ	1	0	0	1		
そうなんです	0	6	0	6		
そうなんですよ	0	3	2	5		
そうなんです	0	2	0	2		
そうなんです	0	1	0	1		
そうなんです	0	0	0	0		
そうなんですって	0	1	0	1		
そうでしょう	0	3	1	4		
そうでございますか	0	1	0	1		
そうらしんですよ	0	0	1	1		

そーう	0	1	0	1	169	8%
はー	23	7	6	36		
はーはー	0	1	0	1		
はーはーはー	0	0	1	1		
はーそう	0	0	1	1		
はーうんうん	0	0	1	1		
ほー	36	9	27	72		
へー	58	5	11	74		
ねー	10	3	9	22		
ねーえー	0	0	1	1		
ふーん	39	6	0	45		
ふんふん	0	1	0	1		
ふんふんふん	0	1	0	1		
おー	0	1	2	3	259	13%
あら	2	0	0	2		
あらー	5	4	0	9		
あーらー	1	1	0	2		
あらま	2	0	0	2		
あらららら	1	0	0	1		
まあ	1	0	0	1		
まーね	0	1	0	1		
うわー	1	2	0	3		
でしょう	0	1	0	1		
なるほど	0	6	0	6		
なるほどね	0	1	0	1		
なるほどねー	0	1	0	1		
いやー	0	1	0	1		
いえいえ	1	0	0	1		
いえいえいえ	0	3	0	3		
いやいやいやねー	0	0	1	1		
うそ	0	1	0	1		
やっぱりね	0	2	0	2	39	2%
合計	1055	729	270	2054	2054	

回数別	
1. うん系	39%
2. え系	20%
3. はへほ系	13%
4. はい系	11%
5. そう系	8%
6. あ系	7%
7. その他	2%

種類別	
1. そう系	30種類
2. あ系	27種類
3. その他	18種類
4. はへほ系	13種類
5. え系	11種類
6. うん系	10種類
7. はい系	6種類

#### 4-1-2 総合データに見るあいづちの種類、回数、使用率の考察

三つの番組をまとめたあいづちの総数は、2054回であった。回数別で最も多いのは「うん系」で807回、使用率は39%である。次に多いのは「え系」で421回、20%、次は「はへほ系」で259回、13%、「はい系」225回、11%と続いている。「うん系」や「え系」といった促進型のあいづちが使用率の多くを占めていることが分かる。

種類別で最も多いのは「そう系」の30種類で、次は「あ系」27種類である。これらの回数別と種類別のランキングを比べてみると「うん系」は、その形で固定化していきくり返しの形のみの変化しか見られず、最も回数多く用いられているのに対して、種類別でもっとも多い「そう系」は、回数の点から見るとあまり多くないのが分かる。しかし、「そう系」のバリエーションはそう、そうです、そうなんですのそれぞれに3種～6種に分かれ、様々な形に変化している。種類は多いが使用される回数はほとんどが1回ずつという特徴がみられる。この特徴は、種類別で2位の「あ系」にも当てはまることで使用率は低い。「うん系」と同様にほぼその形に変化が見られないのは「え系」「はい系」でこれらは、えーえー、えーえーえーといったくり返しの形があるだけで大きく変化しないことが特徴といえる。今回の調査では115種類のあいづちが確認された。日本人はこのように多種類のあいづちをその時の状況に見合った形で使い分けていることが分かる。

#### 4-2-1 男女別データ結果に見るあいづちの使用率

次に、総合のデータを男女別にして比較してみたいと思う。下記のデータは性別で分けたものに司会者とゲストの別を示したものである。総計は、放送時間による差があるため回数によって比較することができないので比率による比較、検討を行った。

##### 男女別・男性

	男性司会者・1	男性司会者・2	男性ゲスト・1	男性ゲスト・2	男性ゲスト・3	男性ゲスト・4	総計%
うん系	296	85	3	3	12	2	
	53%	50%	3%	13%	48%	8%	29%
え系	71	20	6	5	1	2	
	13%	12%	6%	22%	4%	8%	11%
はい系	44	0	58	2	0	19	
	8%	0%	58%	9%	0%	73%	25%
あ系	29	13	5	6	1	0	
	5%	8%	5%	26%	4%	0%	8%
そう系	1	6	25	6	10	2	
	0%	4%	25%	26%	40%	8%	17%
はへほ系	116	46	3	1	1	1	
	21%	27%	3%	4%	4%	4%	11%
その他	0	0	0	0	0	0	0
	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
合計	557	170	100	23	25	26	

	女性司会者・1	女性司会者・2	女性ゲスト・1	女性ゲスト・2	女性ゲスト・3	女性ゲスト・4	女性ゲスト・5	女性ゲスト・6	合計
うん系	202	154	1	9	0	11	25	4	
	57%	36%	4%	56%	0%	58%	16%	4%	29%
え系	44	150	5	1	13	2	76	25	
	12%	35%	22%	6%	31%	11%	48%	22%	23%
はい系	4	23	6	1	6	0	25	37	

	1%	5%	26%	6%	14%	0%	16%	33%	13%
あ系	32	27	6	4	5	2	6	4	
	9%	6%	26%	25%	12%	11%	4%	4%	9%
そう系	25	9	10	0	7	3	25	40	
	7%	2%	43%	0%	17%	16%	16%	36%	17%
はへほ系	29	48	0	1	10	1	0	2	
	8%	11%	0%	6%	24%	5%	0%	2%	7%
その他	21	13	0	0	1	0	3	0	
	6%	3%	0%	0%	2%	0%	2%	0%	4%
合計	357	424	23	16	42	19	160	112	

男性		女性	
1. うん系	29%	1. うん系	29%
2. はい系	25%	2. え系	23%
3. そう系	17%	3. そう系	17%
4. え系	11%	4. はい系	13%
4. はへほ系	11%		

#### 4-2-2 男女別データに見るあいづちの使用率の考察

男女別データを見てみると「うん系」は男女共に最も使用率が高いことが分かる。また、「うん系」の使用率が特に高いのは男性司会者であるといえる。男性は、「うん系」と「はい系」を主に使用し「うん系」は司会者に多く「はい系」はゲストに多い。これは待遇度における違いとも考えられる。ゲストはお客様として番組に呼ばれて出演していることから公の場にふさわしい「はい系」のあいづちの使用率が高くなっている。これに対し、司会者側は毎回出演している自分の番組であるためゲストほどの緊張はなく、むしろゲストをリラックスさせようと待遇度の低い「うん系」のあいづちで親しみを表しているのではないだろうか。男性司会者に特に顕著に表われている特徴としては「うん系」の次に「はへほ系」が多いことである。司会者として親密さを表しながらゲストの話を「うん系」のあいづちで促進させ、ゲストの話の内容に関心や共感を表すために「はへほ系」のあいづちを使用していると推測される。「はへほ系」はゲストのあいづちとしては、使用率が少ないことから聞き手である司会者の役割と話し手であるゲストの役割があいづちにも反映されていることがわかる。

女性は、「うん系」と「え系」が多く司会者もゲストもこの二つのいずれかと同程度用いていることが分かる。また、男女共に3位は「そう系」である。これは主にゲストの方に多く使用されている。これは司会者の話す内容がゲストに関するものであるため、はい、そうです。といった司会者の話の内容がゲストの身の上話の内容と合っていることを示すニュアンスのあいづちが打たれている。「その他」のあら、なるほど、まあなどのあいづちは、男性が発話する機会もあるとは思いますが、今回の調査では男性で使用した人は誰もいなかった。女性が驚いた時や強く共感した時の言語行動として見られる種類のものが「その他」に含まれているということが出来る。では、男性がこのような驚きをどのように表しているかと言うと、「はへほ系」のあいづちが使われていると考えられる。

#### 女性・驚きのあいづち

男性ゲスト：だから、あのこうゆうふうになさ、中華なべとかがさ、ぼーっと火が出るのがあるじゃない（はいはいはい・男司）（はい・女司）あれにあこがれてさ（はい・男司）あれをやりたいばっかりに（あーらー・女司）はなまるカフェより

男性・驚きのあいづち

男性ゲスト：でも冷蔵庫にたいがいなんでもあるから、(ええー・女司) (ええ・男司) じゃあ、あっちのあれとあれであれだな、とかさ。(ほー・男司)

女性司会者：すごいなー。

はなまるカフェより

#### 4-3-1 あいづち使用頻度

今回のあいづちの使用頻度調査では、はなまるカフェの司会者のデータをもとに行った。なにぶん手作業のため正確な測定は行うことができなかったが、数値は出演者の発話時間をあいづちの回数で割ったものである。

男性司会者

- ・ 22分 (1320秒) ÷ 175回 = 7.5秒に1回
- ・ 21分 (1260秒) ÷ 198回 = 6.4秒に1回
- ・ 19分 (1140秒) ÷ 184回 = 6.2秒に1回
- ・ 平均：6.7秒に1回

女性司会者

- ・ 22分 (1320秒) ÷ 167回 = 7.9秒に1回
- ・ 21分 (1260秒) ÷ 145回 = 8.7秒に1回
- ・ 19分 (1140秒) ÷ 112回 = 10.2秒に1回
- ・ 平均：8.9秒に1回

#### 4-3-2 あいづち使用頻度の考察

男性司会者の方があいづちの使用率が高いことが明らかになった。先行研究では女性の方があいづちの使用頻度が高いとされているが、本研究の結果は異なっていた。今回の調査では非言語のうなずきによるあいづちを含めていないためではないかと考えられる。また、主にゲストに対して質問しているのは男性司会者であるため自然と男性司会者のあいづちが多くなっていることもあるようである。女性司会者が質問した場合には、女性司会者のあいづち使用率が高まることも確認されている。次に、あいづちの使用頻度を研究した先行研究と比較してみよう。ラジオの電話相談番組の平均6.1秒に1回と、テレビの対談での平均9.1秒に1回という結果が報告されている。本研究は、テレビのトーク番組を資料としているので男性司会者6.7秒に1回と女性司会者8.9秒に1回という結果は先行研究よりも頻繁にあいづちが打たれていることがわかる。このように聞き手は、あいづちを盛んに打つことで話に積極的に参加しているよという信号を送っているのであり、日本語における談話は、この信号を相手に送りつけながら進んでいく形態をとっているのである。また、この数値は、あくまでも音声的に表われたもののみによる結果であるためうなずきによるあいづちを入れるとすれば更に1回当りの秒数は小さくなるものと考えられる。

#### 4-4-1 あいづちの出現する環境

これまであいづちの種類と回数、その使用率と使用頻度についての結果を見てきた。それでは、あいづちはいつ、どのように打たれるのだろうか、水谷信子氏の研究では、あいづちが入る前の部分は通常「て」「けど」「が」「から」などがあると述べられている。本研究でもあいづちの使用率が最も高い結果が出たはなまるカフェを資料としてあいづちが打たれる前の語についての調査を行った。

男性ゲスト・1		男性ゲスト・2	
1.	て・で 66箇所	1.	ね・よね 55箇所
2.	ね・よね 47箇所	2.	です・ます 31箇所
3.	です・ます 44箇所	3.	形容詞 25箇所
4.	けど・けども 27箇所	4.	て・で 22箇所
		4.	から 22箇所



女性ゲスト		総合	
1. て・で	79箇所	1. て・で	167箇所
2. ね・よね	29箇所	2. ね・よね	131箇所
3. けど・けども	26箇所	3. です・ます	90箇所
4. です・ます	15箇所	4. けど・けども	77箇所

### 5. 4-4-2 あいづちの出現する環境についての考察

はなまるカフェの3回の放送分のデータをすべて総合したのを見ると最も多いのは助詞の「て」「で」のあとであることが分かった。このあいづちの出現する箇所はポーズの場所であり、文の切れ目であるということが出来る。その文の切れ目の中でも「て」や「で」のあとにあいづちが打ちやすいということである。文の途中であるため促進型のあいづちが多く用いられる傾向にあり聞き手は話を聞いている、理解しているだから話を前に続けて下さいといった信号を音節の短い「うん系」や「え系」のあいづちを打つことによって示し、話がスムーズに進むための役割を担っていることがうかがえる。次に多い「ね」「よね」はポーズが入ること、文の最後に付けられる終助詞であることもいえるが、この助詞は同意を求める機能を持っているため、聞き手のあいづちを誘発するための材料とも考えられ、あいづちを打ちやすい環境になっている。次に多いのは「です・ます」でここには文の終わりである読点の入る場所である。この場所には「はへほ系」や完結型のあいづちと呼ばれるそうですか、そうなんですなどのあいづちが打たれている。以上のような結果により、文の途中の「て」などの助詞・助動詞によって区切られる部分と文の終わり、特に終助詞の「ね」で終わる部分にあいづちが出現することが分かった。

女性ゲスト：ほとんどレシピがないものなんです、(へー・男司) (へー・女司) 子供たちも今日は何ができるんだろうって、(うん・女司) どんな味のものができのうだろうって、(うん・男司) … はなまるカフェより

### 5. まとめと今後の課題

今回の研究では、あいづちに使われる言葉には「うん系」「え系」「はい系」「あ系」「そう系」「はへほ系」などがあり、その種類と回数、使用率について調べた。あいづちの総数は2054回で115種類のあいづちが確認された。全体で最も使用率が高かったのは「うん系」で種類別で最も多いのは「そう系」だった。男女別では、男性は「うん系」と「はい系」の使用率が高く、女性は「うん系」と「え系」の使用率が高いことが分かった。「その他」に分類したあいづちは男性にはまったく使用されていないという結果も出て、あいづちの使用に男女差が大きく関わっていることが分かった。また、あいづちの使用頻度の調査では、男性司会者6・7秒に1回、女性司会者8・9秒に1回という結果が出た。これはうなずきという非言語のあいづちも考慮に入るとすれば、更にあいづちが頻繁に打たれていることが容易に想像がつくといえる。そして、あいづちの出現する環境については、従来の研究同様「て」などの助詞・助動詞によって文の区切られる途中の部分と文の終わり、特に終助詞の「ね」で終わる箇所にあいづちが多く出現することが分かった。これらの調査から日本語のあいづちは、種類も豊富で頻繁に打たれていることが明らかになった。また、あいづちの形に変化がなく回数多く使用されるものと、バリエーションが豊かであるが使用率の低いものなどあいづちによる特徴についても知ることができた。「そう系」のようにバリエーションの豊かなあいづちは、発話者の微妙な心情を映すことができる反面、そうです、そうなんですのようなニュアンスの違いを学習者が習得できれば日本語でのコミュニケーションをより円滑にし、学習者のコミュニケーション能力の向上につながるものと期待している。今回の調査結果をもとに今後のあいづち習得への試みに生かしてゆきたいと思う。

#### 資料

- ・笑っていいとも
- 山下洋輔、桃井かおり、小林聡美、常盤貴子
- ・はなまるカフェ
- 長崎宏子、グッチ祐三、相島一之
- ・徹子の部屋
- 金井克子、加納隆至、音無美紀子

## 参考文献

- (1) 伊藤博子 (1993・9) 「談話の指導—バックチャンネルからの展開—」 日本語学 12 卷 8 号
- (2) 今石幸子 (1993・3) 「聞き手の行動—あいづちの条件—」 阪大日本語研究 5
- (3) 大浜るい子、山崎深雪、永田良太 「道聞き談話におけるあいづちの機能」 日本語教育 9 6 号
- (4) 黒崎良昭 (1987・9) 「談話進行上の相づちの運用と機能」 国語学 1 5 0 集
- (5) 小宮千鶴子 (1986・2) 「相づち使用の実態」 大東文化大学教育研究所 語学教育研究論叢 3 号
- (6) 斎藤眞理子 (1999・1) 「ACTFL—OPI 初級から超級に見られた相槌の分析」 文化女子代医学紀要 人文・社会科学研究 第 7 集
- (7) 坂本和子 (2000・7) 「あいづちにおける日米差」 TSURUMI RWVIEW 3 0
- (8) 杉戸清樹 (1989・3) 「ことばのあいづちと身振りのあいづち」 日本語教育 6 7 号
- (9) 杉藤美代子 (1991・10) 「談話分析・発話とポーズ」 日本語学 1 0 卷 1 0 号
- (10) 杉藤美代子 (1999・4) 「東京と大阪の談話におけるあいづちの種類とその運用」 日本語科学 5
- (11) 曹永湖 (1994・9) 「談話における相づちの運用と機能」 東北大学日本語学科論集 4 号
- (12) 中島悦子 (2000・12) 「あいづちに使用される「はい」と「うん」 ことば」 現代日本語研究会 2 1 号
- (13) 藤原真理 (1993・9) 「対話における相づち表現の考察」 東北大学文学部日本語学科論集 3 号
- (14) ポリー・ザトラウスキー(1986・12) 「談話の分析と教授法(Ⅱ)」 日本語学 5 卷 1 2 号
- (15) ポリー・ザトラウスキー(1987・1) 「談話の分析と教授法(Ⅲ)」 日本語学 6 卷 1 号
- (16) 堀口純子 (1988・3) 「コミュニケーションにおける聞き手の言語行動」 日本語教育 6 4 号
- (17) 堀口純子 (1991・10) 「あいづち研究の現段階と課題」 日本語学 1 0 卷 1 0 号
- (18) 松田陽子 (1988・12) 「対話の日本語教育学」 日本語学 7 卷 1 3 号
- (19) 水谷信子 (1988・12) 「あいづち論」 日本語学 7 卷 1 3 号
- (20) 水谷信子 (1993・4) 「「共話」から「対話」へ」 日本語学 1 2 卷 4 号
- (21) 宮地敦子 (1959) 「うけこたへ」 国語学 3 9 集
- (22) メイナード・K・泉子 (1987・11) 「日米会話におけるあいづち表現」 月刊言語 1 6 卷 1 2 号
- (23) 楊晶 (1999) 「中・日両言語の相づちに関する一考察」 お茶の水女子大学大学院人間文化研究科Ⅱ編 人間文化研究年報 2 3 卷
- (24) 渡辺恵美子 (1994・3) 「日本語学習者のあいづちの分析」 日本語教育 8 2 号